



## 行事のその先へ

主任 樋谷 桃代

10月12日、力を合わせて取り組んだ運動会が終わりました。今年は久しぶりに小学生競技や未就園児競技も復活し、たくさんの方に来ていただくことができました。体育館での開催は園児と観客の距離が近く、見てくださっている方のまなざしや拍手が子どもたちの大きな力になったと思います。また、多くの方に間近で子どもたちの一生懸命頑張る姿、かわいい姿、喜んだり悔しがったりする姿を見ていただき、子どもたちの成長を実感していただけたことと思います。

運動会を迎えるために年長組の子どもたちは日々、係のことや司会のこと、グループでのリズム表現について等、時にはぶつかり合い、相談しながら進めていきました。その中で、自分の思いを優先させたいけれどチームのためには自分の思いの調整が必要なことを学び、友達の良さや自分の力にも気が付くようになってきました。

年少組の子どもたちは運動会前から年長組のリズムやリレーに興味津々でした。「年長さんみたいに踊ってみたい」「バルーンやってみたい!」と感じたようです。運動会の数日前、園庭で数名の年長児が音楽を流して運動会のリズムを踊っていると、年少児がお客さんとして、並べられた椅子に座って見始めました。思わず年長児のまねをして手が動き出し、そのうちに立ち上がり、一緒に踊りだす年少児。「もう一回、もう一回」と何度も何度も催促して踊っているうちに、「舞台に立っても良いですか?」と年長児に聞き、今度は年少児の舞台となりました。その横で年長児は楽器を使って音楽に合わせて演奏したり、舞台の向かい側に立ってお手本を見せたりする姿が自然と生まれていました。

運動会後の遊びの中では、2学年一緒に折り返しリレーをする場面がありました。年長児は少し力を抜いて走ったり、「ハンデをつけよう」と折り返しの位置を遠くして、走る距離を増やしたり、時には思い切り走って「年長さんはやっぱり速い」と言われて喜んだりしています。異年齢での関わりの中で運動会の余韻を楽しむことができました。

年長児は、自分たちをまねする年下の幼児の姿から、憧れられる嬉しさを感じています。数々の葛藤を乗り越え、力を出して運動会をやり遂げたという満足感があるからこそ、自分の良さや自分が憧れられていることに気付けるのだと思います。

憧れること、憧れられることは、成長の大きな糧となります。すぐ隣にお互いを感じられる2年保育ならではの縦のつながり、関わりをさらに深めていきたいと思います。

幼稚園の行事はその日がゴールではなく、それまでの経験を活かし、さらに発展していくよう一日の流れや教材、場の作り方を考えて計画的に遊びや活動を積み重ねています。皆で経験したことがまた新たな生活や遊びにつながっていくことでしょう。

今後も一人一人の楽しんでいることや挑戦を読み取り、皆で日々の生活をつくっていくことを楽しんでいきたいと思います。

